

## グリオ « DJELI »

グリオ（バンバラ語でジェリ：djéli）とは、西アフリカで伝統的にコミュニケーション機能を担う人々のことを言います。グリオは言葉を操り、マンディンカ（西アフリカに広く分布する民族）社会の連帯形成を司っていました。

### グリオの重要性：

西洋のアフリカ侵略以前、西アフリカには文字が存在しませんでした。そのため、当時グリオは人々の図書館のような存在でした。グリオは様々な事象を理解・吸収し、それを他者に説明・伝達したり、また、先祖やマンディンカの偉大な戦士の伝説や歴史を語ることも出来ました。この能力に加え、グリオは祝いの席（結婚、洗礼など）の司会を担い、さらに公式行事や葬儀の際のスポークスマンも務めていました。

### 歴史：

グリオ一族の歴史は、マンディンカ帝国勃興以前にさかのぼります。叙事詩等によると、グリオはマンディンカ初代の王の子孫だと伝えられています。このマンディンカ王は、当時の偉大な獵師達を高く評価し、彼らに対し好んで賛辞を送っていました。しかしその様な行為は、王という立場に不釣り合いだとして、マンディンカの人々は王に止めるよう要求していました。残念ながら、最後まで王はこの要求を飲むことなく、彼の弟に王座を譲りました。しかし、公式に王座を退く際、「**NE DANKO ; NGA SOMANO**」という言葉を残したのです。これは、自身の時代の終了を告げると共に、彼が王座にいた間、マンディンカ帝国の領域は良く統治された、という意味です。この言葉を受けて、王の子ども達が**DANKO** と **SOMANO** と名乗るようになり、マンディンカ最初のグリオが誕生したのです。その後、時と共に、**DANKO** は **DANGON** に、**SOMANO** は **SOUMANO** へと変化していきました。

### 発展：

グリオ文化の開花は、スンジャタ・ケイタ王の時代（マリ帝国 1235－1255）に始まりました。

マンディンカ王国を制圧した大戦中、グリオは密使、つまりメッセージを伝達したり情報を流したりすると同時に、当時の王達の助言役でもあるなど、王に近い存在でした。その一方、戦場では大変勇敢な戦士でもあったのです。このことから、1235年キリナ（KIRINA）の戦い後、スンジャタ王は、マンディンカの領域内ではグリオの殺害を禁止しました。

図書館や学校の存在が一般的となった現代アフリカにおいて、グリオの役割は縮小しています。しかし、特に西アフリカでは、常に重要な存在と考えられています。なぜなら、今日でも、結婚や神聖な文化行事またはお祭りなどに、グリオの存在は欠かせないからです。

在マリ日本大使館  
現地職員 カンダ・ケイタ



グリオとドンソ・ンゴニ (6~8 弦楽器)



伝統的な衣装をまとった猟師



伝統的な衣装をまとった猟師



ジェンベ (太鼓) に合わせて踊る